

東三河支部

視察研修会

- 日 時：令和6年2月7日（水）午前9時
- 視察先：石坂産業（株）三富今昔村
（埼玉県入間郡三芳町上富 1589-2）
- 集合場所：東京駅 八重洲南口改札口外側
- 参加者：23名

東三河支部（鬼頭秀幸支部長）の例会は、産業廃棄物の中間処理業として、メディアからも注目されている石坂産業（株）にて視察研修会を開催致しました。

参加者の方々は東京駅から大型バスにて石坂産業（株）三富今昔村へ向かいました。

車中では鬼頭支部長より「本日はとても寒く雪が降りましたが、大勢の方が視察研修会にご参加いただきありがとうございます。今から向かう石坂産業（株）の三富今昔村は、報道でも度々紹介されており、一度伺いたいと思っておりました。見学先での取組が皆様の社業の一助となることを願っております。また、寒い中での開催ですので体調にご留意いただき、多くのものを吸収していただける有意義な視察研修会としてください。」と述べました。

続いて研修指導委員長の洪本雅昭氏は「本日は雪の降る寒い中、視察研修会にご参加いただきありがとうございます。皆様のご協力を賜り多くの方にご参加いただきありがとうございます。」と述べ、雪の影響を受けた視察スケジュールについて説明があり、バスも道路状況から遅れての現地到着になりました。

研修は施設内で行われ、同社の概要について、村

の案内人の農学博士・森林インストラクター 矢口瞳氏より動画とスライドにて説明がありました。

三富今昔村は、不法投棄で荒廃した雑木林を美しい里山に再生させた土地にオープンした体験型施設です。東京ドーム約4.5個分の敷地内に、リサイクル工場、ワークショップ等、「自然との共生」を五感で学べる様々な施設があります。

事業概要の説明では、売上は約71億円、従業員200名、環境のキーワードは「ごみから資源へ」、同社における処理作業（機械・人の手）は、建屋で全て覆った中で行っています。取扱品目は7種類（廃プラスチック類、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、紙くず）の許可を取得。木材はチップにして製紙メーカーと燃料用チップ、コンクリート・アスファルトは碎石等に行っています。土砂系の混合廃棄物からいろいろ取り出し残った土から、重金属が溶け出さないよう処理を施し盛り土等に使用する再生土を開発しました。このような取組から資源再生率98%であるとのこと。また、社会への取組では「地域に必要とされる会社」を掲げ、地域の農家よりダイオキシンを排出しているのではないかといい風評から、地域から出て行ってほしいとの抗議があり、ダイオキシン対策済みの焼却炉を廃炉にして、49億円かけて現在のプラントを建てました。社員の意識改革では、工場が稼働していない時に清掃活



車中で挨拶をする
鬼頭支部長



車中で挨拶をする
洪本委員長



社内で施設概要の説明を受ける

動を行っています。それでも地域の里山には不法投棄が絶えず、地域の方が手入れをしても手入れしきれないことから、同社がその里山を借りて保全をしているエリアが三富今昔村です。その活動が口コミで広がり、近隣で土地の管理を同社に希望される方が増え、東京ドーム4.5個分にまでなったとのことでした。

解説後、工場見学となりましたので担当者に誘導され屋外に出て社屋①や施設②の説明を受け、建屋内の工場にて窓越し③に廃棄物処理の作業現場④、⑤を見学しました。

屋外の通路散策⑥では雪が降ったこともあり、一面銀世界で、廃棄物処理施設の中にいるとは思えな

いほど静かで空気が澄んでいました。

昼食にはお勧めの、石坂オーガニックファームの有機小麦を地粉に使った温かい手打ちうどん⑦をいただき、評判通りの美味しさでした。

その後、同社執行役員 石坂靖子氏⑧から話を伺い、参加者からの質問に石坂役員が答えら、最後に視察研修のお礼を述べ、研修会を閉会しました。

懇親会は東京駅近くで開催⑨され、雪で冷えた体を温めるような会食の時を過ごしました。

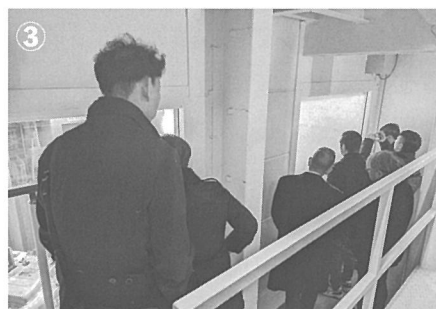
今回の視察研修会は天候に左右されましたが、様々な環境問題、人と自然と技術が共生する未来について深く考える貴重な体験ができた有意義な事業であり、思い出深い研修会となりました。



① 社屋



② 施設見学の様子



③ 施設見学の様子



④ 施設内の作業の様子



⑤ 施設内の作業の様子



⑥ 施設見学の様子



⑦ 名物肉汁うどん



⑧ 挨拶をする石坂執行役員



⑨ 懇親会会場にて記念撮影